

---

# 白い部屋

瑞希

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

白い部屋

### 【コード】

N5801D

### 【作者名】

瑞希

### 【あらすじ】

妻に先立たれ、還暦を過ぎた男性が主人公です。行間、余白、色合いを感じる文章が描きたくて挑戦してみました。

## 一、浮遊

### 一、浮遊

低く横たわる機械音と遠い雨音が、まるで絨毯のように部屋中に敷き詰められている。白い画面にはただ点滅するカーソルと、その右側に並ぶ“あいうえお”の羅列。静かに並ぶキーボードを僅か撫でながら行き場を探す、その所在無さげな指先をただ目で追っていた。

追い出されるようにして辞めた会社から、それでも退職金がでた。再就職のつもりもないのに「社会復帰の第一歩だ」と意地をはって買ったパソコン。少し重い。

これを買ったときは娘も目を丸くし、「社会現象の余波がここにもきてるね、お父さん。」と、一人で頷いていた。

「週末になると、お前が旦那を放ったらかしてここに来るのも、社会現象かもな。」そう横目で睨んでも、「ワードには日記、エクセルには家計簿が特効薬らしいよ。」と、涼しい顔でお茶を啜っていた。

そんな娘が、帰り際には真面目な顔でこう言った。「うちのマー君は理想的な旦那様なんだからね。同居の件だって嫌々とかじゃないんだよ？お父さんももう65歳でしょ、ちゃんと真剣に考えたいね。」娘はそう言うのと玄関のドアを開け、ポンつと透明ビニル傘を広げた。

雨音が一段と大きくなる。

「おい、お茶を飲もう。」

誰かに話し掛けるような自分の独り言に、いつもながら少し笑う。

子供は出て行った。妻は死んだ。もちろん娘の結婚は喜ばしく、妻

の病死は誰も何も悪くない。けれども俺は一人だ。この行き場のない独り言は、ひねくれた愚痴のようなもの。ぶつけられないから、空中に投げ捨てる。

「ある意味、我が家もごみ屋敷だ。」  
また、少し笑う。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5801d/>

---

白い部屋

2011年1月16日02時19分発行